

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年5月30日 NO.17

花ちゃん 「モンタ博士、私、ふしぎなお花を見つけたの。」

モンタ博士 「なんていうお花なのかな。」

花ちゃん 「それがね、毎日みているうちに
お花の色が変わっていくの。」

オー君 「花も変身（へんしん）するんだ。」

花ちゃん 「本当に変身するの。この前
見たときは、白だったのに、
今日みたら黄色になっているの。」

オー君 「そんな変な植物ってあるのかな。」

モンタ博士 「それは、たぶんスイカズラだよ。」

オー君 「えっ？スイカとカツラがどうしたの？」

モンタ博士 「スイカではなくて、スイカズラだよ。」

花ちゃん 「においがとってもいいの。オー君もこのお花のにおいをかいでみて。」

モンタ博士 「花のにおいや草のにおい、土のにおいや感触（かんじやく）など、そういうものにびんかんであることは、とても大切だと思うよ。」

花ちゃん 「ところで、モンタ博士、どうしてスイカズラという名前がついたんですか。」

モンタ博士 「その前に、花の色が変わるほかに、どんなとくちょうがあったか言って
ごらん。」

花ちゃん 「かきねの所にあってね、何か他の木にからみついている感じだったわ。
何と言っても、においがステキなの。あまいような…。ともかく、
いいにおいな。それから、4年生が矢川たんけんでも見つけた花だよ。」

モンタ博士 「もうそれで答えはでたようなものさ。スイカズラのスイはにおいを『すう』
という意味があるし、カズラというのはね、からみつく『つる植物』という



スイカズラ

意味なんだよ。カズラという言葉がつけば、ほとんどがつるでからみつくのさ。

たとえば、どんなのがあるかと言うとね。」

花ちゃん 「私に言わせて、えーっとね、テイカカズラ、ビナンカズラ、それから、フウセンカズラというのもあるわ。」

オー君 「おいらだって知ってら。あのさ、まちがえたらごめんな。ヘクソカズラというへんな名前の植物もあったよな。」

モンタ博士 「ヘクソカズラは、ヘとクソを合わせたようなへんなにおいがするんだよね。」

花ちゃん 「においも名前もへんだけど、花はとってもかわいくて、夏に咲くわね。」

モンタ博士 「よく見ているね。さすがは植物博士だね。ところで、花のにおいにもどるけど、どうしてそんなににおうのかと、考えてことはあるかな。」

オー君 「そいつはね、虫との関係（かんけい）だよな。モンタ博士。」

モンタ博士 「そのとおりだね。どんな花にどんな虫が来て、どんなにおいなのかをまとめてみると、おもしろい自由研究になると思うよ。ところで、においはどんな時によくするのかな、と調べてみたことあるかな。答えはね、気温が高くなって、湿度（しめりけ）が高くなると、においはよく広がるんだよ。」

花ちゃん 「これからの季節は花のにおいをかぐことも、観察で大切なポイントね。」

オー君 「花ちゃん、おいらスイカズラの花を急に見たくなったよ。スイカズラのたくさん咲いている場所に、おいらをつれてってくれよ。レッツ・ゴーだ！！！」

モンタ博士 「さあ、みんなでスイカズラの花の咲いているところを探そう。」

西の地方から梅雨入り宣言

いよいよ梅雨入りのニュースが報じられるようになりました。この梅雨は日本に豊かな水の恵みを与え、生物にとっては、とても貴重なものであります。その意味するところは、今後詳しくお伝えしたいと思います。ところで、「お天気」のことわざというのがどれくらいあるかを調べてみたので、以下ご紹介します。

☆せみが鳴きやむと雨 ☆うろこ雲は雨
☆太陽がかさをかぶると雨雲があつくなるので雨
☆黒い雲がでると雨 ☆飛行機雲が広がると雨
☆トンボが低く飛ぶと雨 ☆ハチが低く飛ぶと雷
☆センチコガネがかごのなかを飛ぶと次の日は晴れ
☆センチコガネが土の中にかくれると次の日は雨
☆クモが巣のまんなかについて動かない時は雨
☆クモが巣をすてて、新しい巣を作る時は晴れ。
☆春の北風は晴れ ☆かみなりがなると梅雨明け
☆ちやわんのめしつぶがとれないと晴れ
☆雲のいきちがいは雨になる。・・・などなど。



スイカズラ *Lonicera japonica*